番町の広い空

番町らしい立派なお屋敷と、その緑を撮影していたら、真夏の青い空が気になった。向こうのマンションが恐らく、番町の最高高さ60mだろうが、それでも何とか空が見えている。
再開発絡みの「子供広場」より、広い空をこれからも見せてあげたい。

清水あつし

ちよだ かわら版

千声会

vol.5

2024年9月30日発行

千声会

sensei_info@ml.globis.co.jp

すべての子どもたちに、これからも広くて青い、ほんとの空を

「千代田区民の声を届ける会」（千声会）は、地域のよい環境を守り、より良いまちづくりを進めるために行政や議会に区民の声を届けるべく、有志を中心に立ち上げた会です。千代田区では近年、地域の人々の様々な声を十分に吸い上げず、住民に対する説明やその手順も不十分なままで、一部事業者の優遇や、開発ありきとしか思えないような地区計画の変更・地域開発を、強引と言わざるを得ないやり方で進めています。
私たちは、地域の一人ひとりが持つ多様な意見を交え、より豊かな地域を一緒につくっていきたいと考えています。その声は小さくても、集まれば力になります。その第一歩として、「千声会」はこの「かわら版」を作りました。手に取ったみなさまが、ふと立ち止まり一緒に考えてくださることを願っています。そして、一緒に住みよいちよだをつくりませんか。

誇りを取り戻せ！ 千代田区よ

区民の声（番町在住）

私は『ちよだかわら版』のファンである。千代田区のまちづくり行政に大きな疑念を抱いている住民の想いを率直に代弁してくれているからだ。

『ちよだかわら版』3号に嬉しい発見があった。大発見と言ってもいい。

＊＊＊

それは、1984年、今から40年前の千代田区の加藤清政区長によって出されたという「教育と文化のまち千代田区宣言」である。ここには、時を超えて人々に届くまちづくりの原点が明確に示されている。それが私の胸に響く。

かつて千代田区には、まちづくりの主役は区民であるという認識があったのだ。また、千代田区のまちづくりには地域社会としての人々のふれあいや連帯が必須のものであり、それこそが、都市の活力を支えるものだというまちづくりの根本が共有されている。そして、**「わたしたちすべてがこのまちをわがまちとして考え、自らの手で心と心のふれあう魅力ある街に築き上げる決意」**をせよ、という区民を鼓舞する力強いメッセージもあったのだ。

3号に紹介されていた宣言の一部を、深い共感の気持ちと敬意そして感謝の気持ちを持ってここで再び紹介せていただく。

＊＊＊

▼わたしたちは、ここに生活し、多くの人々と連帯の絆を保つ中で、このまちに誇りと愛着を感じている。

▼しかし、東京の都市構造は日本の経済発展とともに変容し、今までの歴史的環境がこわされ、多くの仲間がこのまちを離れ、地域社会としての人々のふれあいが薄くなり、都市としての活力が失われつつあることにわたしたちは不安を感じている。

▼わたしたちすべてが、今改めてこのまちをわがまちとして考え、自らの力で心と心のふれあう魅力あるまちに築き上げる決意をし、努力を続ける必要がある。

＊＊＊

翻って、この宣言から40年を経過した現在の千代田区の姿はどうだろう。

昨年度、まちづくりに関する委員会で長年要職を占め強力に開発を推進してきた元区議が官製談合事件で逮捕された。そして、千代田区役所が3時間もの家宅捜索を受けるという前代未聞の事態が繰り返し報道された。そのニュースに住民は大いに驚き衝撃を受けた。

しかし、正直に言うならば、住民たちはこの逮捕に「やっとこうなったか……」と安堵したのではないだろうか。「これで区内のあちこちで強引に進められている開発案件は一旦立ち止まることになるだろう」と思った人も多くいたと思う。

ところがである。千代田区も千代田区議会も再開発案件を一切見直すことなく、区はその後も開発業者と土地を所有する企業に寄り添う姿勢を顧みることもない。千代田区さんよ、寄り添う相手を間違ってはいないだろうか?依然として、住民の声は届かない。

一体どういうことなのか、闇は深い。しかし、我々千代田区民は諦めない、諦めてはいけない。なぜなら、多くの住民は、**この千代田区に誇りと愛着を持って生活している**からだ。

千代田区に愛着と誇りを持っているからこそ、区のまちづくり行政についてもの申す。このことを、千代田区長、まちづくり担当者はしっかり受け止めていただきたい。

＊＊＊

パリオリンピックを観て思った。パリのまちには中心部25㍍、外部で31㍍の高さ制限がある。これを守ってこそ、パリは永遠の花の都、憧れの都市であり続けている。

更に、新しい市長のもと、緑豊かでウォーカブルな健康的な都市を目指して一層の進化を遂げようとしている。

東京都でも千代田区でも、やろうと思えば実現できるはずである、意志さえあれば。

時代は激しく変化を遂げるが、まちづくりにおいては何を大事にすべきなのだろうか?

区役所も住民も40年前の宣言を今一度胸に刻み、誰のものでもない**みんなのものである千代田区の将来のために誇りを持って、今こそ生まれ変わる勇気を持つべき**だと思う。

この問題 千代田区の 弁護士はこう見ています

早稲田リーガルコモンズ法律事務所
弁護士 久道 瑛未

今年1月24日に当時の区議と元職員が逮捕され、7月に元区議に有罪判決が言い渡されました。

これは氷山の一角で、千代田区では長年にわたり議員・区・業者の癒着が常態化しているとの報道もされています。利権構造が世間に露呈し、区政の大改革が期待される局面です。

しかし、再発防止策を検討する委員会のトップには副区長が据えられ、外部の第三者委員会ではなく、区内部のメンバーが検討の主体となっています。組織内部の問題を外部の視点から厳正に見直すべき場面で、検討に客観性や透明性が欠ける懸念があります。

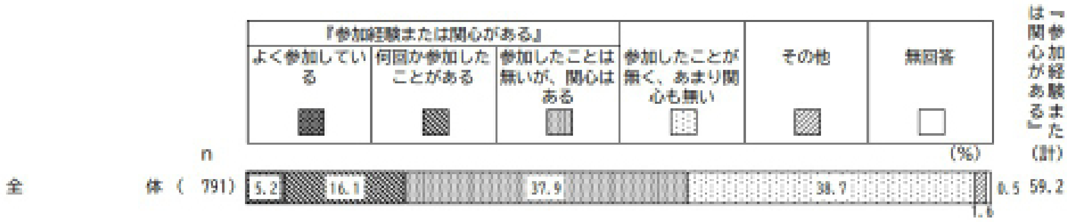
有識者会議も設置されましたが、独自の調査権限は持たず、主に意見聴取の役割にとどまっています。

報告書には、最も重要な元区議に対するヒアリング調査の記載がなく、他に不正があったか否かを徹底的に調査したものではありませんでした。組織改革の具体的なスケジュールや実行計画も示されておらず、抜本的な改革には程遠い状態です。

千代田区が真に生まれ変わるためには区民の視点に立ったガバナンスの再構築が不可欠です。

千代田区が丸見え！ おもしろ データ

●あなたは地域の活動(町会やボランティア活動など)に参加したことがありますか。(○は1つ)



みなさんは、町会等の地域活動に参加したことはありますか？

町会とは、同じ地域の住民等によって組織される任意団体・地縁団体であり、防災訓練・清掃活動・夜警・交通安全運動・募金活動・お祭りなどの地域イベントなど、住民同士の親睦や地域の安心・安全を守るための活動を行う組織です。（千代田区ホームページより）

第50回千代田区民世論調査によると、地域の活動（町会やボランティア活動など）に「よく参加している」人が（5・2％）、「何回か参加したことがある」人が（16・1％）でした。何らかの形で地域活動に参加している人は、平成28年には3割程度だったのが現在は約2割と減少傾向が続いていますが、災害時等の助け合いや〈孤独〉の解消が喫緊の課題である現在、町会等の地域コミュニティの重要性はむしろ高まっていると言えます。

このような中、行政に求められることは、「参加したことは無いが、関心はある」（37・9％）層へのアプローチや運営支援ではないかと思います。

しかし、実態は、行政が住民との窓口として町会等に期待する業務が多く、町会長をはじめとした一部の方々への負担が重くなる一方です。また、いくつかのまちづくり事案においては、町会等に属さない住民に必要な情報が届いていなかったことから、再開発問題などで地域を二分するような問題も起こっています。

行政は、町会等の支援を強化しつつ、様々な方法で住民の意見を吸い上げる仕組み、住民同士がつながる場をつくることが必要です。

また、私たちも、町会をはじめとした地域活動や区のイベント・協議会に参加することで、地域の人とつながり、自分たちの生活の場を自分たちで良くしていくことが必要ではないでしょうか。もちろん無理のない範囲で。「ちよだカフェ」もそんな場の一つになれたら嬉しいです。

●出典：第 50 回千代田区民世論調査
https://www.city.chiyoda.lg.jp/documents/31013/yoronchosa50-1.pdf

第4回 ちよだカフェ

ヒートアイランドや気候変動が問題のいま、人に優しい都市のあり方とは

10/7 (月) 18:00 ～

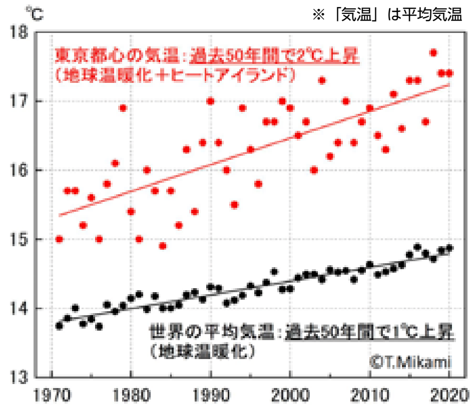
会場：万世橋区民館

千代田区外神田１丁目１－１３

参加無料！

千代田区のヒートアイランド現象
～再開発のあり方と緑の効用～

東京都心部の気温は，高層ビルの増加と緑地の減少により拡大した人工表面の熱収支変化（夏季日中の日射エネルギー蓄熱など）によって，50年間で＋2℃の割合で上昇し続けている。このままの割合で気温上昇が続くと，40年後の2062年の東京の気温は18.8℃となり，現在の鹿児島の気温とほぼ等しくなる。



千代田区などの都心部に特有のヒートアイランド現象、その原因と対策について三上先生に詳しくお話していただきます！（※右図は当日のスライドの1枚です）

【講師プロフィール】
三上岳彦〔ミカミタケヒコ〕
東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。理学博士。お茶の水女子大学助教授、東京都立大学教授、帝京大学教授を経て、東京都立大学名誉教授・客員教授。専門は都市気候・気候変動。

「ちよだカフェ」には、千代田区のことをよく知る弁護士の大城聡さん・久道瑛未さんが毎回参加してくださいます。お2人は、常に住民の側に立ってさまざまな問題解決のために奔走する優しい弁護士さんです。

久道瑛未弁護士・大城聡弁護士

第３回　ちよだカフェ 開催後のアンケート一部ご紹介

バルセロナは文化レベルが高くて素晴らしい。日本の政治家・役人は丸ごと真似したらいい。神宮も日比谷も葛西も神田も皆んな根っこは同じ、市民の声を聞かない腹が立つ／このような住民主体の問題提起・勉強し、共有する場・機会は とても大切な取り組みだと思います／行政が住民の声をきかずに 行政サイドで決めて伐採等を勝手にやることがわかった。しかし 気候変動、温暖化による猛暑や、大雨が現実におこっている／アルマザンさんがバルセロナでの実践を示しながら 神田通りでの実践可能性を提示して下さり興味深かったです。いろいろな立場の方の意見を伺えてよかったです。（みなさま、ご参加ありがとうございました！）

ちよだカフェ予告

第５回 11/5 (火) 19:00 ～
第６回 12/9 (月) 19:00 ～

※場所・内容は
決定次第お伝えします。

クラウドファンディング、残り半月を切りました！

私たちは現在、「ちよだかわら版」制作費のため、クラウドファンディングを行っています。当プロジェクト全体の必要資金は約 300 万円です。直接の寄付と合わせてまだ半分程度しか確保できていません。 このクラファンはまずは 30 万円という最初の目標を達成しました。ご協力いただき、誠にありがとうございます。必要資金の確保に向けて、ネクストゴールを設定して取り組んでいます。支援金は、引き続き「ちよだかわら版」の発行のためにつかわせていただきます。今後も、皆さんにさまざまな情報をお届けしたいと思っています。ぜひご協力ください。

議会傍聴のお誘い

第３回定例会、予算・決算委員会が始まります。傍聴してみませんか？
場所は区役所８階、事前申込不要、入退室は自由です。

◎ 10 月４日（金）再発防止委員会
◎ 10 月 10 日（木）10 時半～予算・決算（総括）※予定
◎ 10 月 11 日（金）10 時半～予算・決算（総括）※予定
◎ 10 月 15 日（火）10 時半～環境まちづくり委員会

代表・一般質問や一部委員会はライブ中継（録画）をやっています。
ライブ中継は、右の QR コードからご覧いただけます。
※詳細につきましては、事前に区議会の HP をご確認ください。
https://gikai-chiyoda-tokyo.jp

ライブ中継

生活の質・住環境を更に良くするために、あなたの声を聞かせてください

私たちが目指す千代田区
1、歴史・教育・文化を大切にする“ まち”
2、いつまでも住みたい、そして住み続けられる“ まち”
3、一人ひとりが尊重され、区民の声が届く“ まち”

代表　堀義人

千声会 HP

千代田区民の声を届ける会　事務局　sensei_info@ml.globis.co.jp